

Topics

「奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会」を開催しました

3月9日、サンパール荒川小ホールで「奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会」を開催しました。この大会は、千住大橋の鉄橋化80周年記念事業として平成20年に始まりました。奥の細道矢立初めの地である荒川区と、むすびの地である岐阜県大垣市の子どもたちが参加して行われる俳句大会です。

荒川区の13チームと大垣市推薦の3チームの合計16チームがトーナメント形式で対戦しました。俳句の披露では、詠んだ俳句にちなんだパフォーマンスもあり、会場からは大きな拍手や歓声が上がっていました。



▲西川区長と一緒に優秀な成績を収めたチームが記念撮影

「川の手荒川まつり」が開催されました

4月29日、都立汐入公園で「第33回川の手荒川まつり」が開催されました。開催に先立って行われたパレードには区内の学校も参加し、吹奏楽の演奏やバトンを披露しながら芝生広場からメインステージまでの道のりを行進しました。また、同時開催された荒川区商店街連合会による「商業祭」にも多くの方が足を運び、平成最後の川の手荒川まつりを満喫している様子でした。



▲吹奏楽の演奏をしながら行進



▲大にぎわいの「ふるさと市」

なりたい自分になる！
「スタイリスト」になるために！

将来の夢 インタビュー 第3回

タレントの中川翔子さんや元AKB48の藤江れいなさんなどのスタイリングを担当。国内外でスタイリングデザイナーを務める渡邊美奈さんに話を聞きました。

スタイリストの仕事は始めたきっかけは？

最初は洋服のデザイナーになりたかったです。服飾の学校を卒業してから、服飾デザイナーとしてデザイン事務所就職したんですが、そこで服のスタイリングもお願いされました。

急に仕事を依頼されて大変だったのでは？

洋服は好きなので、それはありませんでした。あと、私は洋服を作ることができるので、「お店に服がなければ作れば良い」という感じで楽しかったです。

スタイリストになるために、何をすればいいでしょう？

服飾系の学校で学ぶのが一番の近道です。生地の見方やミシンのかけ方など、洋服の基礎を学ぶこともできます。

スタイリストになりたい小・中学生にアドバイスはありますか？

自分ではない、例えばお友達の洋服のスタイリングをしてみましょう。家にある洋服で、春夏秋冬や休日など、シチュエーションに合わせたコーディネートを考えてみてください。スマートフォンや携帯電話で写真を撮って、記録してみるのもいいかも。スタイリングをして喜んでもらえると、ホントに嬉しいですよ。お気に入りの魅せ方を見つけてください。

渡邊美奈さん



1965年11月生まれ。岐阜県出身。田中千代服飾短期大学(現・田中千代ファッションカレッジ)服飾科卒業。現在、(株)コンテンポラリーコーポレーション、デザイン事務所クローパーに所属し、デザイナー、スタイリストとして活躍している。

応援message

自分ならではの
目線を持ちよう！
渡邊美奈

「頭の中で考えていることは達成できると考えています。なりたい自分になってください」と渡邊さん。

あらかわ 今昔ものがたり 日 [ばしょうくんと旅する奥の細道]

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



旅立ちの地・千住大橋

今年、松尾芭蕉が奥の細道に旅立ち330周年。弟子の曾良さんといっしょに、俳句を詠み句会を開きながら、関東・東北・北陸地方の名所・旧跡を巡り、美濃の大垣まで、約150日間、約600里(約2,400km)の旅をした。この旅の紀行文が『おくのほそ道』なんだ。今回から、8回シリーズで奥の細道の旅のお勧めスポットを案内するよ。さあ、奥の細道の旅に出発！
弥生も末の七日 元禄2年(1689)3月27日の早朝、空がほのぼのと明るくなるころ、深川(江東区)から船に乗った芭蕉さん一行は、隅田川を静かに遡って行った。3月27日は、今のカレンダーだと、5月16日にあたるんだ。船上の芭蕉さんは、幽かな富士山の姿を眺め、すでに散ってしまった上野・谷中の桜を思い、今度いつ見ることができるだろうかと心細さを感じながら、江戸の風景を目に焼き付けたんだよ。そして、汐入(南千住八丁目)のカーブを大きく左に曲がると、いよいよ旅立ちの地、江戸との別れの場所が近づいてきた。

「千住ゆ(千住)と云所」はどこ？ 『おくのほそ道』に「千住ゆ(千住)と云所にて船をあげれば」と記されている。旅立ちの地とは、そう千住。ここには徳川家康が架けた千住大橋がある。江戸時代、千住大橋は、江戸の境界として知られていた。芭蕉さんは、千住大橋の袂でお弟子さんやお友だち、住みなれた江戸の町とお別れをして、奥の細道へと旅立って行ったんだ。
行く春や 旅立ちにあたり、春から初夏への季節の移ろいや友人らと永遠の別れになるかもしれないという気持ちを込め、俳句を詠んだ。それが奥の細道矢立初めの句なんだよ。

行く春や鳥啼き魚の目は泪

素盞雄神社(南千住六丁目)には、『おくのほそ道』の一節と芭蕉さんの姿を刻んだ江戸時代の句碑があるよ。今度、芭蕉さんの旅立ちの時の気持ちを思い出して、千住大橋や素盞雄神社の辺りを訪ねてみてね。



素盞雄神社の奥の細道矢立初めの句碑